

報徳園だより

〒514-0065 三重県津市河辺町 1317-1
TEL:059-228-1951 FAX:059-228-1952 <http://www.houtokuen.jp/>

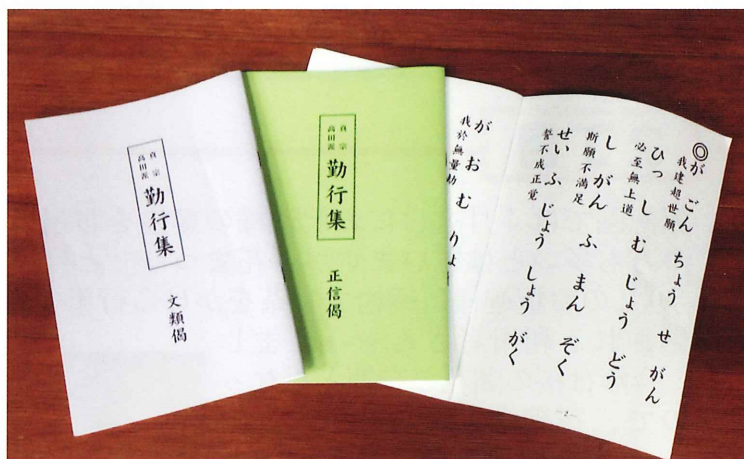
題字 理事長 常磐井猷磨

「老人互助会の終了について」

園長 千草篤磨

報徳園の入所者の互助組織である「老人互助会」が令和4年3月末で終わることになりました。互助会ができた当初は、50人定員の小さな老人ホームで、ほぼ全員の方が顔見知り、身体状態も精神状態も現在よりもずっと軽度な状態でした。仲の良かった方が亡くなると、遺族に個人的な香典を渡す方もありました。また、病気で入院した同室者を見舞いに行きたいという方も少なくありませんでした。そこで、互助会を作って会費を徴収し、香典や見舞いを会費から出すこととして、個人的な出費を極力なくすようにしました。

また、互助会の役員を選び、役員が代表して見舞いに行く時期もありました。また、誕生会など園行事の企画を職員と一緒に考えたり、園からのお祝いとは別に互助会からも誕生者へプレゼントをしたりし、その際は役員から手渡してもらったりしてきました。互助会が始まった頃の会長さんは、元村会議員の方で、熱心に会



の運営に携わって頂きました。また、互助会役員と職員との茶話会もあり、その場で園生活についての意見交換をしてきました。

しかし、徐々に入所者の方の介護度が重度化し、認知症状のある方も多くなる中で、従来のように役員さん主導の互助会運営が難しくなってきました。これは全国的な傾向のようです。企画も減り、会費を徴収する意義もなくなってきたため、現在の役員さんと担当職員が話し合っ、互助会を終了することとしました。終了にあたって、余ったお金をどうするかを話し合い、毎日のお参りに使うお経の本の字が小さくて読みにくいので、大きな活字にして、報徳園独自に3種類の本を作ることとしました。互助会はなくなりましたが、大きな字のお経の本（「高田派勤行集」）の奥付には、「令和4年3月発行」と「報徳園老人互助会」の文字が刻まれています。



入所者のみなさんの生活は、 心身の状況に応じて4つのゾーンに分かれています。

1丁目

三月、桃の節句、お雛祭りの行事があり、1丁目が担当でした。今年は園長がお内裏様、担当の職員がお雛様の衣装を着て、各丁目をまわり、利用者さんと共に歌をうたったり、記念撮影をしたりしました。いつも接している園長や職員ですが、衣装を着ていると、利用者さんは又違った様を感じられるのか、照れて恥ずかしがったり、とても嬉しそうだったり、普段なかなか見られない表情を見せてもらえました。お雛祭りといえば女の子の節句ですが、男性女性関係なく、皆さん楽しんで頂けた様です。



2丁目

報徳園では4月8日にお釈迦様の誕生をお祝いする花まつりがおこなわれました。ご存じの方も多いとは思いますが「花まつり」とは、お堂に花を飾り付けた「花御堂（はなみどう）」のお釈迦様に柄杓で甘茶をかける行事です。きれいに飾られた花御堂を背景に写真撮影される利用者さんもみえました。今年は桜の開花の時期と重なったので、花御堂は春らしい彩りとなっていました。ほかにも利用者さんは花御堂の前でおこなわれる法話を聞き、昼食のメニューにある甘茶を味わうなど、花まつりをいろいろと楽しまれていました。



3丁目

5月5日は端午の節句、この日は天気にも恵まれ、園庭でよもぎの餅つきを行いました。

皆さんの応援を受けながら職員、利用者さんに餅をついてもらいました。昔とった杵柄と力強く餅をつく利用者さんの姿に歓声が上がり、立派な餅ができてきました。また、有志の方に分けて頂いたお茶の枝から茶摘みをしてもらいました。どの茶葉にしようかと悩まれたり、摘んだ茶葉の香り確かめたりと楽しんでいただきました。初夏の近づきを感じながら無病息災を願う1日でした。



4丁目

今年も七夕の季節がやってきました。利用者さんや職員の色々な願い事を短冊に書いていただきました。利用者さんの願い事は「美味しいご飯が食べたい」との願いが多く書かれており、私たち職員も、利用者さんがたくさん美味しいご飯を食べて、いつまでも元気でいて欲しいと思います。職員の願い事は「コロナが早く収まって欲しい」という願いが多く書かれていました。今後も利用者さんの笑顔をいっぱい引き出せるレクリエーションに取り組んでいきたいと思っています。



デイサービスセンター報徳園（認知症対応型通所介護）

感染予防の為に行事縮小により中止していた音楽療法が半年ぶりに開催されました。「椰子の実」「浜辺の歌」「星影のワルツ」など、昭和の夏の曲に合わせてトーンチャイムやレインスティック・オーシャンドラムの音色を聴き楽器に触れることで、普段は穏やかな利用者さんがリーダーシップをとる一面もありました。音楽で季節を感じながら楽しい一時を過ごしました。



在宅介護支援センター

一人暮らしをされている高齢者の方が増えています。近くに協力してもらえるご家族がおらず、ご本人に認知症状がある時などは、時には受診に立ち会ったり、デイサービスの利用日に準備を手伝いに行く等の配慮が必要になることもあります。ケアマネジャーの役割は、介護保険法で定められていますが、そのことだけをしては、高齢者の方の生活を支えることはできません。自分自身のやっていることが、高齢者の方の自立支援につながっているのか、悩みの連続です。

ケアマネジャー一人の力だけでは何もできません。「多職種連携」が重要であり、さまざまな職種の方と力を合わせて、高齢者の方の在宅生活を支える必要性を強く感じます。





入所者インタビュー

木平 芳子 さん (103才)

私は教師として勤めていましたが55才の時に両親が病気になり、退職しました。両親のお世話をし、その後には夫の介護もして、大変な時期もありましたが、皆に助けられながら長生きさせてもらいました。今ではたくさんの子供や孫がいます。家にいた時には、夜が一人で心配だからと息子が泊まりに来てくれていましたが、報徳園に入れてもらって、朗らかに過ごさせてもらっています。幸せです。ここの職員さんは良い人ばかりで、園長の優しい気持ちが皆に通じていると感じています。園内の知り合いに会いに行ったり、話を聞かせてもらったりしています。話さないと話すことを忘れてしまうので、話すことは大事ですね。私はのんきもんで気にしない性格、長生きの秘訣はそんなところでしょうか。



家族インタビュー

(娘) 山中 綾美 さん (報徳園看護職員)
 (デイ利用者) 天野節子 さん 83才

私の夫の祖母が報徳園のサービスを利用したのが、私と報徳園との関わりの始まりです。その後、誘われて就職しました。同居している母が、日中一人で過ごしている事に不安を感じるようになり、報徳園のデイサービスの利用を始めました。それまで、利用者の家族として、職員として、報徳園の介護の内容を見ているため、信頼して預けることができます。母と一緒に出勤して、一緒に帰る生活は6年も経ちましたが、急な残業や勤務変更の時でも、母を預かってもらえるので、安心して働くことができます。出勤の時に、母の準備もして出かけるのは少し大変ですが、母が入浴も食事も済ませて一緒に帰れるのは安心ですし、助かっています。食事や行事等、園での生活の様子を見ているので、家での会話が自然と弾むのも良い面だと思っています。



地域のみなさんへのインタビュー



社会福祉法人高田真善会 評議員 北 主計 さん

40年余り教員をしながら、中央公民館の活動である寿大学で社会教育も行いました。そこではハーモニカや大正琴などを演奏する寿楽団を作りました。65才以上の方の老後の生きがいとして関わった事ですが、今でも発展しながら活動している寿楽団の姿を見て嬉しく思っています。退職後は、短期大学の非常勤講師やスクールカウンセラーの仕事もしていました。私が民生委員を始めた頃は、一人暮らしの高齢者が増え始めた時代で、「このままではいけない」と安心できる施設への入所のお手伝いをすることもありました。そんな時に出会った報徳園では、入所検討委員会の委員や評議員として関わった事で、施設の役割の大きさを感じました。報徳園さんには地域の入所施設として、今後も力を入れていって欲しいと思っています。

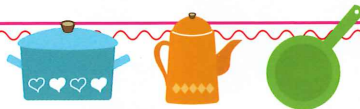
医務室より



新型コロナウイルス感染症の発生から2年半が経過し、園でも3回目の新型コロナウイルスワクチン接種を、今年の2月と3月に受け、終了し、これで大丈夫と安心していましたが、三重県内の感染者数は12日連続で前週を上回ったと発表しており、蔓延していて油断できない状態である。そんな中で、4～5月の大型連休には3年ぶりの新型コロナウイルスによる行動制限解除や、マスク着用の考え方が緩和される等、「ウィズコロナ」への解決は進みつつあるようです。津市の花火大会の開催では、海水浴場、駐車場を開放し、浜辺散策や砂遊びなど、現地に足を運んでほしいという取り組みもあり、少しずつ以前の生活を取り戻せるようです。この時期の猛暑では、こまめな水分補給をし、体調を整えて、利用者さんがこれから4回目の新型コロナウイルスワクチン接種が受けられるように援助していきたいと思っています。



給食業務より



今年の花祭りの食事は季節の食材を多く使用し、春らしい綺麗な見た目で提供しました。

筍ご飯は生の筍を灰汁抜きから調理して、咀嚼しやすいよう薄く切り、風味を活かした上品な味に仕上げました。鯛の塩焼きには桜型のかまぼこを添え、薄ピンク色で春らしい彩りにしました。炊き合わせには生のふきを使用し、利用者の方にも『良い味付けで美味しい』と季節を感じていただけただけです。アスパラのピーナツ和えもそのままだと固さが気になるため、繊維に対して斜めにスライスして茹でることで噛む力の低下した利用者さんにも食べやすいよう配慮しています。デザートは抹茶ティラミスはミキサー食の方も他の方と同じように楽しんでもらえるよう、ふわふわのムース状に手作りました。そしてお釈迦様の甘茶も昼食と一緒に提供し、甘さを楽しんでいただけました。

春の食材は筍やふき、アスパラなど、中にはそのままだと繊維があり高齢者では食べにくい物もあります。しかし既製品では味わえない風味や季節感を感じていただくため、調理の工夫で美味しく食べやすい食事を提供していけるよう意識を持って取り組んでいきます。



ミキサー食



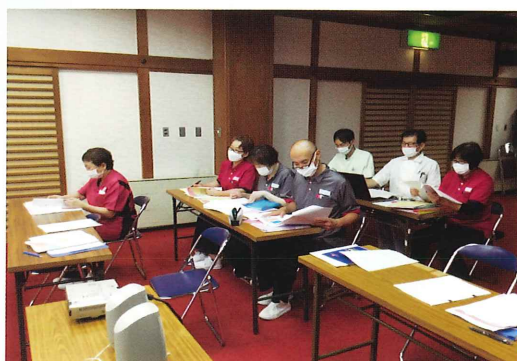
普通食

職員研修会

今回の職員研修は、厚生労働省老健局がBCP作成支援指導者養成研修用に作成した「自然災害発生時の業務継続計画（BCP）作成のポイント」という動画によるものでした。BCPとは、災害が起こった時にいかに日常の業務を継続していくか、いかに被害を最小限に抑えるかをあらかじめ想定しておく計画です。介護施設においてもBCPの作成が義務化され、それを作成するためのポイントを動画で学びました。対象となる職員は、介護職員、看護職員、栄養士など、いろいろな職種で構成されている災害対策委員会のメンバーです。

この計画は作成することが目的ではなく、それを基にした訓練をしてさらなる課題や問題点を見つけ、計画を改善していかなければなりません。報徳園でも毎月の避難訓練で避難経路の確認を行ったり、一年に一回非常時の食事提供訓練を行ったりしていますが、備蓄品の管理や必要物品の補充等も常に把握しておくことが大切になってきます。また、電気やガスが使用できなくなった時の対応なども考えておかなければなりません。

南海トラフ地震がいつ起こってもおかしくないと言われていいる中で、どんな被害を受けるかわかりませんが、様々な状況を考えおき、訓練を積み重ね、利用者さんの安全を確保していきたいと思えます。



新任職員紹介 ~新人職員3名の自己紹介です~



村林 拓弥（介護職員）

介護職員の村林拓弥と申します。私は介護の専門学校で知識と技術を学んできました。これからは先輩の職員さんから様々な事を学び、身につけ、利用者さんから信頼して頂けるような職員になりたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



西岡 眞理（看護職員）

看護職員の西岡と申します。人との関わりが好きで、以前は透析と訪問看護をしていました。施設は初めてでお世話をおかけしますが、早く一人前になり、利用者さんの健康面のサポートが出来るよう努めたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。



橘 舞（看護職員）

看護職員の橘舞と申します。以前は病院の整形外科の急性期病棟で勤務していました。看護師として施設で働くのは初めてなので、慣れるまで時間がかかると思いますが、早く仕事を覚え、一人前になれるように頑張りますのでよろしくお願ひいたします。



老いを生きる

鈴鹿市 欣念寺住職 田中明誠

昔エジプトにスフィンクスという、顔は人間で身体はライオンという恐ろしい動物がいました。そのころスフィンクスは山の麓にいて、そこを通りかかる旅人になぞかけをして、答えられないとその旅人を食べてしまったそうでした。

「朝は4本足で、昼は2本足、夕方は3本足になる生き物はなんだ？」そこを通る人たちは誰もその問題に答えることができなくて、みんな食べられてしまったのでした。そんなある日その話を聞いたある勇気ある若者が、それなら私が答えてみよう、とそこへ出かけて行きました。

スフィンクスは若者にそのなぞかけをしてきました。若者はしばらく考えた後にこう答えました。「それは人間です。朝、つまり小さなうちは這い這いするから4本足。そしてその後は2本足、やがて年を取ると杖をつくから3本足になるのだ。」と。スフィンクスは「そのとおりだ、まいった」と言ってその場からいなくなり、二度と同じことをしなくなったそうです。このお話はエジプトのずっと昔のお話です。でもスフィンクスのなぞかけは今も同じです。

仏教ではこのことを「生老病死」（しょうろうびょうし）といいます。つまり生まれて生きて老いて病んで死ぬ。です。時代も社会も環境もみんな違って、人間をはじめとして命あるものはこの「生老病死」を生きています。

ならばそれから目をそらせるわけにはいきません。そしてまたみんながそうなのでから人は助け合って生きていかねばなりません。もう今ではあまり聞かなくなりましたが、昔から日本では「お互い様」という言葉がありました。人を分けるのではなくみんな同じように助け合って生きる。世の中はみんな巡り巡っている。かけた情けは必ずまた自分にかえってくる。

本当に満ち足りた豊かさとは物ではなく、心であると思います。助け助けられお互いに感謝の気持ちを忘れずに、合掌していけたらこんな素晴らしいことは無いと思います。（なんまんだぶつ）

山村春子さん 100歳お祝い

4月20日の誕生会では、山村春子さんの百歳祝いがおこなわれました。利用者さん、職員、そしてご家族の方々も参加されました。ご家族からは祝いのお言葉を頂くとともに、山村春子さんの娘でもある報徳園職員によって日本舞踊が披露されるなど、百歳を祝うにふさわしい華やかな場となりました。人生百年時代という言葉が聞かれるようになった現在ですが、まだまだ誰もが百歳を迎えられるものではありません。山村春子さんも誕生日前の数ヶ月のあいだは体調を崩され、食欲も下降気味になっていました。しかし、ご自分の誕生日に合わせるかのように元気を取り戻され、自ら率先してお礼の言葉を述べられるなど、みんなを驚かせるほどの健在ぶりを発揮されていました。ご本人は「次は敬老の日まで頑張る」と言われています。私たち職員は山村春子さんが敬老の日のあとも、元気に過ごせるように力添えしていきたいと思ひます。



ギャラリー



「高田本山防火訓練」 林 真栄さん

集会所（仏間）前の廊下の壁は絵画や写真のギャラリーとして、入所者や来園者の和みと癒しの空間となっています。月単位で10作品ほどを入れ替え展示しています。今回は林真栄さんの写真と川西みどりさんの絵画を紹介します。



「ひまわり」 川西みどりさん

令和3年度 決算報告		貸借対照表(要旨)	
事業活動計算書(要旨)		令和4年3月31日現在	
(自)令和3年4月1日 (至)令和4年3月31日		法人名: 社会福祉法人高田真善会	
法人名: 社会福祉法人高田真善会 (単位: 円)		資 産 の 部	
勘定科目	決算額	勘定科目	当年度末
サービス活動増減の部		流動負債	
収 益		流動負債	42,463,258
介護保険事業収益	604,707,462	現金預金	212,262,024
経常経費寄附金収益	3,462,436	事業未収金	88,691,121
サービス活動収益計(1)	608,169,898	固定資産	578,723,426
費 用		基本財産	405,543,454
人件費	466,369,124	土 地	196,588,016
事業費	104,209,986	建 物	208,955,438
事務費	35,526,023	その他の固定資産	173,179,972
利用者負担軽減額	0	土地	74,745,000
減価償却費	27,957,818	建物	11,136,043
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 6,455,251	構築物	6,943,693
サービス活動費用計(2)	627,607,700	構築物	3,332,585
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 19,437,802	構築物	24,641,235
収 益		構築物	52,381,416
受取利息配当金収益	3,843	その他の固定資産	74,745,000
その他のサービス活動外収益	7,806,710	基本財産	405,543,454
サービス活動外収益計(4)	7,810,553	土 地	196,588,016
費 用		建 物	208,955,438
その他のサービス活動外費用	5,192,600	負債の部合計	94,844,674
サービス活動外費用計(5)	5,192,600	基本金	680,558,876
サービス活動外増減差額(6=4-5)	2,617,953	国庫補助金等特別積立金	60,944,614
経常増減差額(7=3+6)	△ 16,819,849	次期繰越活動増減差額	43,328,407
特別増減の部		その他の増減差額	△ 16,819,852
収 益		器具及び備品	24,641,235
施設整備等寄附金収益	0	退職給付引当資産	52,381,416
特別収益計(8)	0	純資産の部合計	784,831,897
費 用		資産の部合計	879,676,571
基本金組入額	0	負債及び純資産の部合計	879,676,571
固定資産売却損・処分損	3		
特別費用計(9)	3		
特別増減差額(10=8-9)	△ 3		
当期活動増減差額(11=7+10)	△ 16,819,852		

※決算書類等は膨大なため、報徳園事務所で閲覧できます。担当職員までお申し出ください。また、報徳園ホームページにて公開しております。

花火大会

7月15日(金)に2年ぶりとなる祇園会が開催されました。昨年はコロナの影響で花火のみでしたが、今年は、職員による盆踊りやスイカ割りなどの催しと共に打ち上げ花火を楽しみました。近隣の「こどもの杜ゆたか園」でも年長児のおもいで作りのイベントが行われており、雨の影響でテラスからの観賞となりましたが、花火コールをしながら大喜びで楽しんでいました。違う場所からですが、打ち上げ花火を通して入所者さんと園児の交流が行われています。



本園の研究発表が奨励賞を受賞

令和3年度全国老人福祉施設研究会議における本園の研究発表「不安な表情の多い高齢者への関わり」が、第1分科会(分散会1)で「奨励賞」を受賞しました。受賞に際しての講評等については、本園ホームページの最新情報(3月16日付け)をご覧ください。



編集後記

今回は、毎年行われる恒例行事の記事が多く掲載されました。園内の様子が上手く伝わる事を願いつつ、「あの方も読んでいただけるかな?」と、家族さんの顔を思い浮かべながら、編集後記を書いています。報徳園だよりを手にとって下さった皆さん、発行にご協力頂いた皆さん、ありがとうございました。